

(証券コード 7748)
平成24年6月11日

株 主 各 位

埼玉県所沢市南永井1026番地の1
株 式 会 社 ホ ロ ン
代表取締役社長 穴 澤 紀 道

第27回定時株主総会招集ご通知

拝啓 平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申しあげます。

さて、当社第27回定時株主総会を下記のとおり開催いたしますので、ご出席くださいますようお願い申し上げます。

なお、当日ご出席願えない場合は、書面によって議決権を行使することができませんので、お手数ながら後記株主総会参考書類をご検討くださいます。同封の議決権行使書用紙に賛否をご表示いただき、平成24年6月26日（火曜日）午後5時までにご返送くださいますようお願い申し上げます。

敬 具

記

1. 日 時 平成24年6月27日（水曜日）午前10時
2. 場 所 埼玉県所沢市東住吉三丁目5番
所沢パークホテル 1階 白峰
(末尾の株主総会会場ご案内図をご参照ください。)
3. 目的事項
報告事項 第27期（平成23年4月1日から平成24年3月31日まで）
事業報告及び計算書類報告の件
決議事項
第1号議案 取締役6名選任の件
第2号議案 監査役1名選任の件

以 上

-
1. 当日ご出席の際は、お手数ながら同封の議決権行使書用紙を会場受付にご提出くださいますようお願い申し上げます。
 2. 添付書類及び株主総会参考書類に修正をすべき事情が生じた場合は、インターネット上の当社ウェブサイト (<http://www.holon-ltd.co.jp>) において、修正後の事項を掲載させていただきます。

(添付書類)

事業報告

(平成23年4月1日から
平成24年3月31日まで)

1. 会社の現況に関する事項

(1) 事業の経過及びその成果

当期における日本経済は、東日本大震災の影響による生産活動の停滞や原発停止による電力不足の問題に加え、欧州の財政危機や急激な円高・株安の長期化などにより先行きの不透明な状況で推移いたしました。

半導体業界におきましては、スマートフォン（高性能携帯電話）やタブレット端末などデジタル家電に使用する半導体の需要は好調に推移しているものの、震災の影響による生産体制の混乱やタイの洪水被害は国内企業に大きな打撃を与えるなど先行きの見通せない状況が続きました。

このような状況のもと、当社は主力製品であるマスク CD-SEM につきまして、顧客の仕様ニーズに対応した製品開発を継続してまいりました。最新鋭機「Z7」は電子ビーム制御系を一新し最新のソフトウェアを搭載して高性能化を進め第2四半期におきまして納入実績を上げております。また、当社独自の帯電防止技術の強みを発揮するナノインプリント基板への応用など新たな受注先の開拓にも注力してまいりました。しかしながら、第4四半期に販売を計画していた案件は顧客都合により受注に至らず売上目標を達成することができませんでした。

一方、電子スタンプ「EBLITHO」につきましては、その技術を基礎とするロールモールド露光装置の開発が旭化成株式会社との共同開発で成功したことにより半導体以外の産業分野からも注目を集めました。この共同開発に関連して、当社独自のロールモールド評価用 SEM の開発も高く評価され、露光装置の試作用共同開発装置とロール SEM を受注し第4四半期におきまして顧客への納入を完了しました。

上記の結果、当期の売上高は 826 百万円（前期比 53.5%増）となりました。損益につきましては、営業損失 126 百万円（前期営業損失 11 百万円）、経常損失 132 百万円（前期経常損失 40 百万円）、当期純損失 135 百万円（前期当期純損失 37 百万円）となりました。

売上高実績内訳

セグメントの名称	売上高	前年同期比
電子ビーム関連	千円 826,676	% 153.5
合計	826,676	153.5

(2) 設備投資等の状況

特筆すべき事項はありません。

(3) 資金調達の状況

特筆すべき事項はありません。

(4) 対処すべき課題

①主力製品マスクCD-SEMの技術力の向上

主力製品であるマスクCD-SEMは、分解能ばかりではなくスループットも大幅に向上させる研究開発を継続しております。

最新鋭機「Z7」は、電子ビーム制御系を一新し、最新の卓越したソフトウェアを搭載して、低雑音化、耐温度・振動性能向上、高クリーン化などによる高性能化を達成しました。この優位性は有力半導体メーカーにおいて高く評価され当期に納入実績を上げております。

また、当社独自の帯電防止技術の強みを発揮するナノインプリント基板への応用など新たな市場の受注先の開拓にも注力しております。

今後も、更なる性能向上と顧客志向性を目指してマスクCD-SEMの商品化に努めてまいります。

②複数製品の製造・販売による経営の安定化

当社の製品構成がマスクCD-SEMに大きく依存している状況から、同装置の販売動向により業績も大きく変化するリスクを回避するために、製品のラインアップの充実を計画しております。

当社の「EBLITHO」の技術を基礎とするロールモールド露光装置は、旭化成株式会社との共同開発において種々の成果を収めました。昨年、ドイツ及び韓国で開催された国際学会での研究発表は半導体以外の産業分野からも注目を集めました。この共同開発に関連して、当社独自に開発したロールモールド評価用SEMも高く評価され、露光装置の試作用共同開発装置と併せて顧客への納入を完了しました。

一方、電子ビーム高速検査装置につきましても実マスクでのテストを行い、次世代以降の最先端マスク検査に有効な装置であることを実証しております。国内外の大手半導体及び関連メーカーからの早期の受注獲得を目指し経営の安定化を図りたいと考えております。

株主の皆様におかれましては、今後とも格別のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

(5) 財産及び損益の状況の推移

区 分	第 24 期 平成21年 3 月期	第 25 期 平成22年 3 月期	第 26 期 平成23年 3 月期	第27期(当期) 平成24年 3 月期
売 上 高 (千円)	158,764	1,151,338	538,392	826,676
経 常 利 益 又は損失 (△) (千円)	△ 661,154	41,951	△ 40,581	△ 132,980
当 期 純 利 益 又は純損失 (△) (千円)	△ 673,638	39,424	△ 37,850	△ 135,270
1 株 当 たり 当 期 純 利 益 又は純損失 (△) (円)	△20,165.81	1,180.19	△1,133.08	△4,049.41
総 資 産 (千円)	885,643	1,025,093	910,988	914,264
純 資 産 (千円)	441,216	480,640	442,790	307,519

(注) 第24期は顧客の設備投資の先送り等により売上高は前事業年度を下回る結果となりました。第25期は国内外顧客の設備投資の増加により業績は改善いたしました。第26期は顧客の設備投資の繰延べなどの影響により売上高は減少しました。第27期につきましては、1. (1)「事業の経過及びその成果」に記載の通りであります。

(6) 重要な親会社及び子会社の状況

該当事項はありません。

(7) 主要な事業内容

電子ビームを応用したマスク上の微細パターン高精度寸法測定・検査装置の開発・製造・販売。

(8) 主要な事業所

本 社 埼玉県所沢市
韓 国 支 店 京畿道城南市盆唐区

(9) 従業員の状況

従 業 員 数	前期末比増減	平 均 年 齢	平均勤続年数
42名	2名減	43.1歳	9.1年

(注) 上記従業員数には、使用人兼取締役3名は含んでおりません。

(10) 主要な借入先

借 入 先	借入金残高
株 式 会 社 日 本 政 策 金 融 公 庫	69,580千円
株 式 会 社 山 梨 中 央 銀 行	46,000千円
株 式 会 社 エ ー ・ ア ン ド ・ デ イ	200,000千円

(11) その他の会社の現況に関する重要な事項

該当事項はありません。

2. 会社の株式に関する事項

(1) 発行可能株式総数 102,000株

(2) 発行済株式の総数 33,405株

(3) 株主数 2,256名

(4) 大株主

株 主 名	持株数	持株比率
株式会社エー・アンド・デイ	10,216 株	30.58 %
富 加 津 好 夫	4,415	13.21
新 田 純	830	2.48
嶋 崎 勝 次	600	1.79
生 江 隆 男	500	1.49
東 風 海 運 株 式 会 社	492	1.47
崎 山 武 美	464	1.38
飯 田 康 夫	456	1.36
東 祥 弘	456	1.36
穴 澤 紀 道	435	1.30

(5) その他株式に関する重要な事項

該当事項はありません。

3. 会社の新株予約権等に関する事項

当社役員が保有している新株予約権の状況（平成24年3月31日現在）

該当事項はありません。

4. 会社役員に関する事項

(1) 取締役及び監査役の氏名等

地 位	氏 名	担当及び重要な兼職の状況
代表取締役社長	穴 澤 紀 道	
常 務 取 締 役	新 田 純	
取 締 役	加 藤 邦 彦	総務部長
取 締 役	大 島 道 夫	設計・製造統括部長
取 締 役	張 皓	営業統括部長
取 締 役	富加津 好 夫	相談役
取 締 役	古 川 陽	株式会社エー・アンド・デイ代表取締役社長 リトラ株式会社代表取締役社長 株式会社オリエンテック代表取締役社長
常 勤 監 査 役	柳 原 香 織	
監 査 役	有 賀 益 千 代	税理士
監 査 役	三 澤 順 一	

- (注) 1. 取締役のうち、古川 陽氏は社外取締役であります。
 2. 監査役のうち、有賀益千代及び三澤順一の両氏は、社外監査役であります。
 3. 監査役有賀益千代氏は税理士であり、財務に関する相当程度の知見を有するものであります。
 4. 監査役三澤順一氏は大阪証券取引所の定めに基づく独立役員であります。
 5. 当期中における役員の異動は次のとおりです。

就任

平成23年6月28日開催の第26回定時株主総会において、張皓氏が取締役役に選任され、就任いたしました。

(2) 取締役及び監査役の報酬等の額

区分	支給人員	報酬等の額	摘要
取締役	6名	31,804千円	
監査役	3名	8,040千円	
(うち社外監査役)	(2名)	(4,440千円)	
計	9名	39,844千円	

(注) 上記には、無報酬の社外取締役1名は含んでおりません。

(3) 社外役員に関する事項

① 重要な兼職先と当社との関係

取締役古川 陽氏は株式会社エー・アンド・デイ、リトラ株式会社及び株式会社オリエンテックの代表取締役社長であります。株式会社エー・アンド・デイは当社株式の30.58%を保有する大株主であり、当社は資金の借入を行っております。
 リトラ株式会社及び株式会社オリエンテックと当社との間には特別な関係はありません。

② 社外役員の主な活動状況

区分	氏名	主な活動状況
取締役	古川 陽	当事業年度開催の取締役会には、14回中10回に出席し、議案審議等につき、経験豊富な経営者の観点から必要な発言を行っております。
監査役	有賀益千代	当事業年度開催の取締役会には、14回中12回に出席し、議論を行っております。また、当事業年度開催の監査役会には、13回中11回に出席し監査結果についての意見交換、監査に関する重要事項の協議等を行っております。
監査役	三澤順一	当事業年度開催の取締役会には、14回中14回に出席し、議論を行っております。また、当事業年度開催の監査役会には、13回中13回に出席し監査結果についての意見交換、監査に関する重要事項の協議等を行っております。

③ 責任限定契約の内容の概要

当社と社外取締役古川 陽氏は、会社法第427条第1項の最低責任限度額の規定に基づき責任限定契約を締結しております。その契約内容の概要は次のとおりです。

古川 陽氏が社外取締役として、その任務を怠ったことにより当社に損害を与えた場合において、その職務を行うにあたり善意でかつ重大な過失がないときは、会社法第425条第1項に定める最低責任限度額を限度として当社に対して損害賠償責任を負うものとし、その損害賠償責任額を超える部分については免責とする。

5. 会計監査人の状況

(1) 会計監査人の名称

アーク監査法人

(2) 当事業年度に係る会計監査人の報酬等の額

- | | |
|---------------------------|----------|
| ①当事業年度に係る会計監査人としての報酬等の額 | 10,200千円 |
| ②当社が支払うべき金銭その他の財産上の利益の合計額 | 10,200千円 |

(注) 当社と会計監査人との間の監査契約において、会社法に基づく監査と金融商品取引法に基づく監査の報酬額を区分しておらず実質的にも区分できないため、上記の金額にはこれらの合計額を記載しております。

(3) 非監査業務の内容

該当事項はありません。

(4) 責任限定契約の内容の概要

当社と会計監査人アーク監査法人は、会社法第427条第1項の定めに基づき責任限定契約を締結しております。その契約内容の概要は次のとおりです。

アーク監査法人の本契約の履行に伴い生じた当社の損害は、アーク監査法人に悪意又は重大な過失があった場合を除き、10,200千円又はアーク監査法人の会計監査人としての在職中に報酬その他の職務執行の対価として当社から受け、又は受けるべき財産上の利益の額の事業年度ごとの合計額のうち最も高い額に二を乗じて得た額のいずれか高い額をもって、当社に対する損害賠償責任の限度額とする。

(5) 会計監査人の解任又は不再任の決定の方針

当社では、会計監査人が会社法第340条第1項各号に定める項目に該当すると認められる場合には、監査役全員の同意に基づき監査役会が、会計監査人を解任いたします。この場合、監査役会が選定した監査役は、解任後最初に招集される株主総会において、会計監査人を解任した旨と解任の理由を報告いたします。

なお、監査役会は会計監査人の継続監査年数等を勘案しまして、再任若しくは不再任の決定を行います。

6. 会社の体制及び方針

(1) 取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

- ①取締役は、法令及び定款ならびに株主総会の決議を遵守し、取締役が負うべき善良な管理者としての注意を払う義務及び忠実にその職務を行う義務を負っています。取締役会は、取締役会において決定した内部統制システムに関する基本方針に従い、取締役が適切に内部統制システムを構築し、それを運用しているかを監督する義務を負っています。

- ②取締役は、監査役、会計監査人、内部監査部門等の監査による指摘事項に対しては、被監査部門等において一定期間内に適切な改善策をとることにしています。
- ③取締役は、財務情報その他会社情報を適正かつ適時に開示するために必要な体制を整備しています。

(2) その他株式会社の業務の適正を確保するために必要な体制

- ①取締役の職務の執行にかかる情報の保存及び管理に関する体制
当社は、文書（電磁的方法により記録したものを含む）の保存期間、管理の方法は、文書管理規程に従い情報を適切に保存及び管理しています。
- ②損失の危険の管理に関する規程その他の体制
 - 1) 当社は、リスクマネジメントについて、当社経営におけるリスクの把握、その当社経営に及ぼす影響度、重要性及びその回避策等を審議していします。
 - 2) 当社は、当社の経営上のリスクの評価及び未然防止対策、緊急事態の把握、当社経営に対する影響の最小化を定めたリスクマネジメントポリシー及びリスクマネジメント規程を制定・施行しています。
- ③取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制
取締役会は、各取締役の分掌業務を十分確認したうえで、職務分掌及び指揮命令に関する規程に基づく効率的な業務執行（電子化を含む）が行われるとともに、経営情報の迅速かつ適正な把握に努めています。
- ④使用人の職務執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制
当社は、内部監査部門による使用人が行う業務の適正、有効性の検証のみに止まらず、法令違反行為の予防、法令違反行為が発見された場合における対処方法及び是正措置を実施するため、コンプライアンス規程を改定・施行しています。

(3) 監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制

- ①監査役がその職務を補助すべき使用人（補助使用人）を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項及び補助使用人の取締役からの独立性に関する事項
監査役が十分な監査が行われるために必要な体制を要望した場合には、取締役は当該体制を整備しています。
- ②取締役及び使用人が監査役に報告するための体制その他の監査役への報告に関する体制
 - 1) 取締役は、法令に基づく事項のほか、監査役が求める事項について、適宜、監査役への報告を行っています。

- 2) 取締役は、内部監査部門の実施する内部監査の計画、内部監査実施の経過及びその結果について、監査役への報告を行っています。
- ③その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制
代表取締役は、監査役と定期的に会合をもち、会社に対処すべき課題、会社を取り巻くリスク、監査役監査の環境整備の状況等について意見を交換し、相互認識を深めています。

(4) 反社会的勢力排除に向けた基本的な考え方及びその整備状況

- ①当社は、社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力及び団体に対して従来どおり、関係を遮断し、不当、不法な要求に対しては毅然とした姿勢で臨み、決してかかる要求に応じないこととしています。
- ②当社は、コンプライアンス規程に基づき、社長を責任者として、反社会的勢力及び団体から不当、不法な要求を受けた場合は、速やかに警察等外部機関と連携し、関係部署が連携、協力して組織的に対応します。

(5) 財務報告の信頼性を確保するための体制

- ①会計基準その他の法令を遵守し、経理規程をはじめとする関連規程の整備により適正な会計処理を行っています。
- ②経営資源（人、物、金、情報）を有効に活用するために、社内外の情報が迅速かつ適切に伝達される仕組みを構築しています。
- ③業務プロセスにおいてリスクマネジメントを徹底すると同時に、効率的で透明性のある内部統制の体制を構築しています。
- ④一般に公正妥当と認められる基準に従い、内部統制の整備・運用状況の評価を定期的実施し、業務の改善を継続的に行っています。
- ⑤財務報告に係る内部統制の整備・運用を推進し、有効かつ適正な内部統制報告書を作成し、関係箇所に提出しています。
- 「業務の有効性及び効率性」「財務報告の信頼性」「事業活動に関わる法令等の遵守」「資産の保全」を前提としています。

(6) 株式会社の支配に関する基本方針

当社では、会社の財務及び事業の方針の決定を支配する者のあり方に関する基本方針については、特に定めておりません。

(注) 本事業報告中の記載金額は表示単位未満の端数を、1株当たり当期純利益又は純損失については四捨五入、それ以外については切り捨てて表示しております。

貸借対照表

(平成24年3月31日現在)

(単位：千円)

科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)		(負債の部)	
流動資産	740,410	流動負債	480,653
現金及び預金	280,337	支払手形	26,331
受取手形	5,407	買掛金	32,013
売掛金	199,167	短期借入金	246,000
原材料	21,445	一年内返済予定金	20,280
仕掛品	228,284	長期借入金	
前渡金	2,194	未払金	34,218
前払費用	2,910	未払費用	27,250
未収入金	142	未払法人税等	3,099
その他	520	未払消費税等	8,275
固定資産	173,853	預り金	52,786
有形固定資産	148,585	製品保証引当金	30,000
建物	16,981	その他	398
構築物	558	固定負債	126,090
機械及び装置	4,691	長期借入金	49,300
工具器具備品	68,579	退職給付引当金	76,790
土地	57,774	負債合計	606,744
無形固定資産	1,181	(純資産の部)	
ソフトウェア	1,181	株主資本	307,519
投資その他の資産	24,086	資本金	692,361
敷金保証金	24,074	資本剰余金	635,681
その他	12	資本準備金	635,681
		利益剰余金	△1,020,524
		利益準備金	7,020
		その他利益剰余金	△1,027,544
		別途積立金	554,000
		繰越利益剰余金	△1,581,544
		純資産合計	307,519
資産合計	914,264	負債及び純資産合計	914,264

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

損 益 計 算 書

(平成23年4月1日から
平成24年3月31日まで)

(単位：千円)

科 目	金 額
売 上 高	826,676
売 上 原 価	628,495
売 上 総 利 益	198,181
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費	324,330
営 業 損 失	126,149
営 業 外 収 益	111
受 取 利 息	26
そ の 他	84
営 業 外 費 用	6,942
支 払 利 息	4,857
為 替 差 損	1,885
そ の 他	199
経 常 損 失	132,980
税 引 前 当 期 純 損 失	132,980
法 人 税 、 住 民 税 及 び 事 業 税	2,290
当 期 純 損 失	135,270

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

株主資本等変動計算書

(平成23年4月1日から)
(平成24年3月31日まで)

(単位：千円)

	株主資本		
	資本金	資本剰余金	
		資本準備金	資本剰余金合計
平成23年4月1日残高	692,361	635,681	635,681
事業年度中の変動額			
当期純損失	—	—	—
株主資本以外の項目の 事業年度中の変動額(純額)	—	—	—
事業年度中の変動額合計	—	—	—
平成24年3月31日残高	692,361	635,681	635,681

(単位：千円)

	株主資本					株主資本合計	純資産合計
	利益剰余金				利益剰余金合計		
	利益準備金	その他利益剰余金					
		別途積立金	繰越利益剰余金				
平成23年4月1日残高	7,020	554,000	△1,446,273	△885,253	442,790	442,790	
事業年度中の変動額							
当期純損失	—	—	△135,270	△135,270	△135,270	△135,270	
株主資本以外の項目の 事業年度中の変動額(純額)	—	—	—	—	—	—	
事業年度中の変動額合計	—	—	△135,270	△135,270	△135,270	△135,270	
平成24年3月31日残高	7,020	554,000	△1,581,544	△1,020,524	307,519	307,519	

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

個別注記表

1. 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

2. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

(1) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

仕掛品及び原材料 個別法による原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)を採用しております。

(2) 固定資産の減価償却の方法

有形固定資産 定率法(平成10年4月1日以降に取得した建物は定額法)を(リース資産を除く)採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物 14年

無形固定資産 定額法によっております。なお、自社利用のソフトウェアに(リース資産を除く)ついては、社内における利用可能期間(5年以内)に基づく定額法によっております。

リース資産 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産リース期間を耐用年数とした定額法によっております。なお、残存価額については、ゼロとしております。

(3) 引当金の計上基準

貸倒引当金 債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

賞与引当金 従業員賞与の支給に備えるため、賞与支給見込額の当期負担額を計上しております。

退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、当期末における退職給付債務の見込額に基づき、当期末において発生していると認められる額を計上しております。

製品保証引当金 製品の無償補修費用の支出に備えるため、保証期間内の無償補修費用見積額を計上しております。

(4) 消費税等の会計処理

税抜方式によっております。

3. 貸借対照表に関する注記

(1) 担保資産及び担保付債務

① 担保に供している資産

現金及び預金	20,000千円(帳簿価額)
建物	16,981千円(帳簿価額)
土地	57,774千円(帳簿価額)

計 94,755千円(帳簿価額)

② 担保付債務

短期借入金	46,000千円
一年以内返済予定の長期借入金	20,280千円
長期借入金	49,300千円

計 115,580千円

(2) 資産から控除した減価償却累計額

有形固定資産	232,736千円
建物	112,075千円
構築物	161千円
機械及び装置	23,634千円
車両及び運搬具	1,307千円
工具器具備品	95,556千円
無形固定資産	8,958千円
ソフトウェア	8,958千円

(3) 関係会社に対する金銭債権債務

短期借入金	200,000千円
前払費用	1,111千円

(4) 受取手形割引高 9,121千円

(5) 期末日満期手形の会計処理

期末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。なお、当期末日が金融機関の休日であったため、次の期末日満期手形が、期末残高に含まれております。

受取手形	4,672千円
支払手形	3,471千円

4. 損益計算書に関する注記

(1) 研究開発費の総額

一般管理費及び当期製造費用に含まれる研究開発費 29,267千円

(2) 関係会社との取引高

支払利息 3,484千円

5. 株主資本等変動計算書に関する注記

(1) 発行済株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
普通株式(株)	33,405	—	—	33,405

(2) 自己株式に関する事項

該当事項はありません。

(3) 新株予約権等に関する事項

決議	目的となる株式の種類	目的となる株式の数(株)				当事業年度末残高(千円)
		当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末	
第18期平成15年定時株主総会(平成15年6月27日開催)	普通株式	989	—	989	—	—
合計		989	—	989	—	—

(4) 配当に関する事項

① 配当金支払額

該当事項はありません。

② 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

該当事項はありません。

6. 税効果会計に関する注記

(1) 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

繰延税金資産	
製品保証引当金	11,325千円
原材料評価減	10,322千円
仕掛品評価減	28,345千円
税務上の繰越欠損金	531,548千円
減価償却超過額	34,032千円
退職給付引当金	27,168千円
土地	40,023千円
開発助成金収入	17,393千円
その他	9,169千円
繰延税金資産小計	709,329千円
評価性引当額	△709,329千円
繰延税金資産合計	—千円
繰延税金資産(負債)の純額	—千円

(2) 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異については、税引前当期純損失を計上しているため記載しておりません。

7. リースにより使用する固定資産に関する注記

リース取引開始日が平成20年3月31日以前の所有権移転外ファイナンス・リース取引について、通常の賃貸借取引に係る方法に準じて会計処理を行っております。

(リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引)

(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額、減損損失累計額相当額及び期末残高相当額

	取得価額 相当額 (千円)	減価償却累 計額相当額 (千円)	減損損失累 計額相当額 (千円)	期末残高 相当額 (千円)
その他 (工具器具 及び備品)	7,164	1,393	5,771	—

(注) 取得価額相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低いため、支払利子込み法により算定しております。

(2) 未経過リース料期末残高相当額	
1年内	398千円
リース資産減損勘定の残高	398千円

(注) 未経過リース料期末残高相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低いため、支払利子込み法により算定しております。

(3) 支払リース料、リース資産減損勘定の取崩額、減価償却費相当額及び減損損失	
支払リース料	1,194千円
リース資産減損勘定の取崩額	1,194千円
減価償却費相当額	一千円
減損損失	一千円

(4) 減価償却費相当額の算定方法
リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとする定額法によっております。

8. 金融商品に関する注記

(1) 金融商品の状況に関する事項

① 金融商品に対する取組方針

当社は、資金運用については短期的な預金等に限定し、また、資金調達については銀行借入又は主要株主からの借入による方針です。デリバティブは、全く利用しておりません。

② 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されています。当該リスクに関しては、当社の与信管理に従い、取引先ごとの期日管理及び残高管理を行う体制としています。

営業債務である買掛金は、そのほとんどが1年以内の支払期日です。

借入金のうち、短期借入金は主に営業取引に係る資金調達であり、長期借入金（原則として5年以内）は主に開発投資に係る資金調達です。

また、営業債務や借入金は、流動性リスクに晒されていますが、当社では、月次に資金繰計画を作成するなどの方法により管理しています。

(2) 金融商品の時価等に関する事項

平成 24 年 3 月 31 日（当期の期末決算日）における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりです。

（単位：千円）

	貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	280,337	280,337	—
(2) 受取手形及び売掛金	204,574	204,574	—
(3) 支払手形及び買掛金	(58,344)	(58,344)	—
(4) 短期借入金	(20,000)	(20,000)	—
(5) 一年内返済予定長期借入金	(20,280)	(20,280)	—
(6) 長期借入金	(49,300)	(48,764)	△535

(※) 負債に計上されているものについては、（ ）で示しています。

(注 1) 金融商品の時価の算定方法に関する事項

(1) 現金及び預金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっています。

(2) 受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっています。

(3) 支払手形及び買掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっています。

(4) 短期借入金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっています。

(5) 一年内返済予定長期借入金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっています。

(6) 長期借入金

長期借入金の時価については、元利金の合計額を同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割引いた現在価値により算定しております。

(注 2) 長期借入金の決算日後の返済予定額

（単位：千円）

区分	1 年内	1 年超 2 年内	2 年超 3 年内	3 年超 4 年内	4 年超 5 年内
長期借入金	20,280	21,970	20,280	7,050	—

9. 関連当事者との取引に関する注記

(1) 会社等

- ① 名称
株式会社エー・アンド・デイ
- ② 関連当事者の総株主の議決権の総数に占める当社が有する議決権の数の割合
該当なし
- ③ 当社の総株主の議決権の総数に占める関連当事者が有する議決権の数の割合
30.5%
- ④ 当社と関連当事者との関係
資金の借入
役員の兼任
- ⑤ 取引の内容
資金の借入
金利の支払い
- ⑥ 取引の種類別の取引金額
資金の借入 280,000千円
金利の支払い 3,484千円
- ⑦ 取引条件及び取引条件の決定方針
(資金の借入)
貸付極度額 2億円
資金使途 運転資金
利率 短期プライムレートに年利率0.3%加算
- ⑧ 取引により発生した債権又は債務に係る主な項目別の当事業年度末残高
短期借入金 200,000千円
前払費用 1,111千円
- ⑨ 取引条件の変更
なし

(2) 個人

該当事項はありません。

10. 一株当たり情報に関する注記

- (1) 1株当たり純資産額 9,205円80銭
(2) 1株当たり当期純損失 4,049円41銭

1株当たり当期純損失の算定上の基礎は次のとおりであります。

損益計算書上の当期純損失	135,270千円
普通株式に係る当期純損失	135,270千円
普通株主に帰属しない金額	—千円
普通株式の期中平均株式数	33,405株

11. 重要な後発事象に関する注記

該当事項はありません。

12. その他の注記

持分法を適用した場合の投資利益については、関連会社がないため、記載しておりません。

会計監査人の監査報告書謄本

独立監査人の監査報告書

平成24年5月2日

株式会社ホロン
取締役会 御中

アーク監査法人

指 定 社 員 公認会計士 赤 荻 隆 ㊟
業 務 執 行 社 員

指 定 社 員 公認会計士 上 田 正 樹 ㊟
業 務 執 行 社 員

当監査法人は、会社法第436条第2項第1号の規定に基づき、株式会社ホロンの平成23年4月1日から平成24年3月31日までの第27期事業年度の計算書類、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表並びにその附属明細書について監査を行った。

計算書類等に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して計算書類及びその附属明細書を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない計算書類及びその附属明細書を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から計算書類及びその附属明細書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に計算書類及びその附属明細書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、計算書類及びその附属明細書の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による計算書類及びその附属明細書の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、計算書類及びその附属明細書の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての計算書類及びその附属明細書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の計算書類及びその附属明細書が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、当該計算書類及びその附属明細書に係る期間の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

監査役会の監査報告書謄本

監 査 報 告 書

株式会社ホロン

代表取締役社長 穴澤紀道 殿

当監査役会は、平成23年4月1日から平成24年3月31日までの第27期事業年度の取締役の職務の執行に関して、各監査役が作成した監査報告書に基づき、審議の上、本監査報告書を作成し、以下のとおり報告いたします。

1. 監査役及び監査役会の監査の方法及びその内容

監査役会は、監査の方針、職務の分担等を定め、各監査役から監査の実施状況及び結果について報告を受けるほか、取締役等及び会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。

各監査役は、監査役会が定めた監査役監査の基準に準拠し、監査の方針、職務の分担等に従い、取締役、内部監査部門その他の使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、取締役会その他重要な会議に出席し、取締役及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、本社及び事業所において業務及び財産の状況を調査いたしました。また、事業報告に記載されている取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制その他株式会社の業務の適正を確保するために必要なものとして会社法施行規則第100条第1項及び第3項に定める体制の整備に関する取締役会決議の内容及び当該決議に基づき整備されている体制（内部統制システム）について、取締役及び使用人等からその構築及び運用の状況について定期的に報告を受け、必要に応じて説明を求め意見を表明いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書について検討いたしました。

さらに、会計監査人が独立の立場を保持し、かつ、適正な監査を実施しているかを監視及び検証するとともに、会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。また、会計監査人から「職務の遂行が行われることを確保するための体制」（会社計算規則第131条各号に掲げる事項）を「監査に関する品質管理基準」（平成17年10月28日企業会計審議会）等に従って整備している旨の通知を受け、必要に応じて説明を求めました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る計算書類（貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表）及びその附属明細書について検討いたしました。

2. 監査の結果

(1) 事業報告等の監査結果

- 一 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、会社の状況を正しく示しているものと認めます。
- 二 取締役の職務の執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実は認められません。
- 三 内部統制システムに関する取締役会決議の内容は相当であると認めます。また、当該内部統制システムに関する事業報告の記載内容及び取締役の職務の執行についても、指摘すべき事項は認められません。

(2) 計算書類及びその附属明細書の監査結果

アーク監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

平成24年5月9日

株式会社ホロン 監査役会

常勤監査役 柳原香織 ㊞

社外監査役 有賀益千代 ㊞

社外監査役 三澤順一 ㊞

以上

株主総会参考書類

議案及び参考事項

第1号議案 取締役6名選任の件

取締役全員（7名）が、本株主総会終結の時をもって任期満了となりますので、経営体制の効率化のために1名減員し、取締役6名の選任をお願いいたしたいと存じます。

取締役候補者は次のとおりであります。

候補者番号	氏名 (生年月日)	略歴、地位、担当及び 重要な兼職の状況	所有する 当社株式 の数	会社との 特別の 利害関係
1	穴澤紀道 (昭和16年9月13日生)	昭和40年4月 日本電子株式会社入社 昭和60年1月 同社退社 昭和60年5月 当社設立に参画、取締役開発部長 平成14年6月 当社取締役開発・技術担当兼開発部長 平成17年6月 当社常務取締役開発・技術担当 平成20年1月 当社代表取締役社長 現在に至る	435株	なし
2	新田純 (昭和25年8月24日生)	昭和48年4月 日本電子株式会社入社 昭和60年1月 同社退社 昭和60年5月 当社設立に参画、入社 平成10年4月 当社製造部長 平成14年6月 当社取締役製造部長 平成19年6月 当社取締役設計・製造担当 平成20年1月 当社取締役営業担当 平成21年4月 当社常務取締役 現在に至る	830株	なし

候補者 番号	氏 名 (生年月日)	略歴、地位、担当及び 重要な兼職の状況	所有する 当社株式 の数	会社との 特別の 利害関係
3	大島 道夫 (昭和23年12月18日生)	昭和46年4月 中央電子株式会社入社 昭和55年3月 同社退社 昭和55年9月 旭光学工業株式会社 入社 平成13年9月 同社退社 平成14年6月 当社入社 平成19年7月 当社製造部長 平成20年1月 当社設計・製造統括 部長兼製造部長 平成21年6月 当社取締役技術・製造 統括部長兼製造部長 平成23年7月 当社取締役設計・製 造統括部長 現在に至る	—	なし
4	張 皓 (昭和35年7月21日生)	平成9年4月 当社入社 平成21年5月 当社中国台湾事業推 進室部長 平成22年4月 当社営業部長 平成23年6月 当社取締役営業統括 部長 現在に至る	—	なし
5	富加津好夫 (昭和14年8月22日生)	昭和39年4月 日本電子株式会社入 社 昭和60年1月 同社退社 昭和60年5月 当社設立 代表取締役社長 平成20年1月 当社取締役相談役 現在に至る	4,415株	なし

候補者番号	氏名 (生年月日)	略歴、地位、担当及び重要な兼職の状況	所有する当社株式の数	会社との特別利害関係
6	古川 陽 (昭和18年1月29日生)	昭和52年5月 株式会社エー・アンド・デイ設立 代表取締役社長 平成18年6月 同社執行役員社長 平成20年6月 当社取締役 現在に至る (重要な兼職の状況) 株式会社エー・アンド・デイ代表取締役社長 リトラ株式会社代表取締役社長 株式会社オリエンテック代表取締役社長	—	なし

- (注) 1. 候補者古川 陽氏は社外取締役候補者であります。
2. 社外取締役候補者の選任理由について
古川 陽氏は長年にわたり関連当事者で当社株式の30.58%を保有する株式会社エー・アンド・デイの代表取締役社長を務められており、経営者としての豊富な経験と幅広い見識をもとに、当社の経営を監督していただくとともに、当社の経営全般に助言を頂戴することによりコーポレートガバナンス強化に寄与していただくため、社外取締役として選任するものであります。
なお、同氏の当社社外取締役就任期間は本株主総会終結の時をもって4年となります。
3. 社外取締役との責任限定契約について
当社は社外取締役として有能な人材を迎えることができるよう、社外取締役との間で、当社への損害賠償責任を一定範囲に限定する契約を締結できる旨定款に定めており、社外取締役候補者古川 陽氏は当社との間で当該責任限定契約を継続する予定です。
その契約内容の概要は次のとおりであります。
- ・社外取締役が任務を怠ったことによって当社に損害賠償責任を負う場合は、会社法第425条第1項の最低責任限度額を限度として、その責任を負う。
 - ・上記の責任限定が認められるのは、社外取締役がその責任の原因となった職務の遂行について善意でかつ重大な過失がないときに限るものとする。

第2号議案 監査役1名選任の件

監査役有賀益千代氏は、本株主総会終結の時をもって辞任されますので、監査役1名の選任をお願いいたしたいと存じます。

なお、齊藤秀一氏は有賀益千代氏の補欠として選任されることになりましたので、その任期は当社定款の定めにより、辞任された監査役の任期の満了すべき時までとなります。

また、本議案につきましては、あらかじめ監査役会の同意を得ております。

監査役候補者は次のとおりであります。

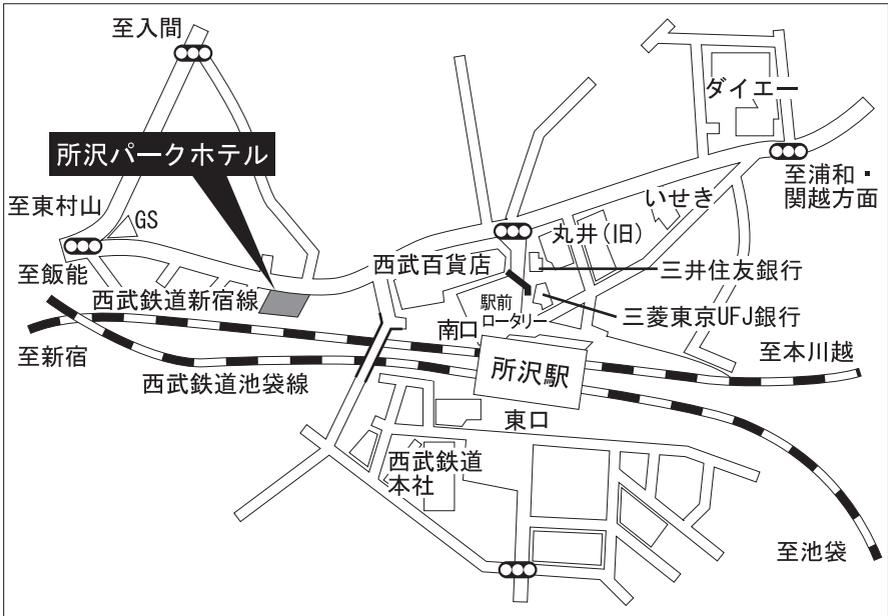
氏名 (生年月日)	略歴、地位及び 重要な兼職の状況	所有する 当社株式 の数	会社との 特別の 利害関係
齊藤秀一 (昭和20年5月21日生)	昭和45年4月 日本電子株式会社入社 昭和57年6月 同社退社 昭和57年7月 株式会社エリオニクス入社 昭和61年12月 同社退社 昭和62年2月 株式会社アプロ入社 平成13年8月 同社代表取締役社長 平成21年2月 同社顧問 平成22年7月 同社退社 現在に至る	—	なし

- (注) 1. 候補者齊藤秀一氏は社外監査役候補者であります。
2. 社外監査役候補者の選任理由について
齊藤秀一氏は株式会社アプロの代表取締役社長を長年務められ、企業経営者として豊富な経験、幅広い知見を有しており、経営全般の監視と有効な助言を期待し、社外監査役として選任をお願いするものであります。

以上

株主総会会場ご案内図

会場 埼玉県所沢市東住吉三丁目 5 番
所沢パークホテル 1 階 白峰
電話：04-2925-5111



交通のご案内

西武新宿線・池袋線「所沢駅」南口より徒歩 2 分 30 秒